

Entertainment

音楽あふれるマチに

第6回日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)＝上田文雄会長、事務局・札幌＝の総会札幌大会が10日、札幌市内のホテルで開かれた。総会では加盟7団体が会員拡大に向けた活動を報告、「『音楽の力』を信じ、私たちのまちのオーケストラ支援と市民をつなぎ、音楽あふれるまちを築こう」とする札幌宣言を採択した。
(編集委員 鈴木博志)

JOFCは2006年に札幌で設立総会が開かれた。設立後の総会が札幌で開かれるのは初めて。広響フレンズ(広島県)、名フィル・ファンクラブ(愛知県)、石川県立音楽堂楽友会、群響を応援する県民の会(群響フレンズ、群馬県)、山響ファンクラブ(山形県)、仙台フィルハーモニークラブ(SFC、宮城県)、札幌くらぶの7団体の会員と来賓ら合わせて70人余りが参加した。

会員拡大についての活動報告では、各クラブから共通して、会員数の減少と会員の高齢化が現状の問題として上がった。今後の対策としては、若い層の会員拡大を図ることが重要とする方針が出された。

これに対し、SFCの長島

日本プロオーケストラファンクラブ協議会

栄一会長は現状を踏まえた上で、「会員数の増加がファンクラブ自体やその活動内容を評価する指標とはならない」と報告。「聴衆拡大を図るオーケストラのマネジメントとファンクラブがオーケストラと接する楽しみ方の両輪がそろつと、聴衆も会員も増える」との考えを示した。

地元の札幌くらぶは武藤義典事務局長が、本年度から始めた会員拡大の取り組みとして、会報への投稿呼び掛け、札幌との情報交換の機会を多くつくるなど7項目を説明、「地元のクラシック音楽ファンを集める活動をしたい」と語った。

広響フレンズはスタッフの佐藤幸一さんが、昨年4月に組織が解散し、現在は残った



ファンクラブが活動を報告し合った第6回JOFC総会

会員拡大へ7団体結束 札幌で総会

スタッフと支援者が再建に向けて今後の構想を話し合っていると報告した。広響フレンズの名称は再建グループの象徴として使用しているという。

総会の冒頭で、事務局が昨年3月11日の東日本大震災で大打撃を受けたSFCへの支援を説明した。JOFCが加盟クラブから集めて既に贈った義援金とは別に、群響フレンズは独自に募金活動を行った。総会の席上、群響フレンズの小野善平会長が募金額10万3837円の目録をSFCの長島会長に手渡した。

札幌宣言は、東日本大震災で仙台フィルが大打撃を受けたが、その後の演奏で「市民に生きる力」を与えたと評価し、音楽にあふれるまちを築くため、「必要な施策を勇気をもって実践していく」と結んだ。上田会長が案文を読み上げ、出席者全員が拍手して採択した。

来年の総会は仙台市で開かれる。SFCの長島会長は「震災から復興中だが、会員約100人が身の丈に合った盛大な歓迎をしたい」とあいさつした。

総会終了後、参加者はキタウで札幌交響楽団の第554回定期演奏会の2日目を聴き、交流会に臨んだ。

クラシック



今年札幌を3回指揮したエリシュカ（右から2人目）＝11月25日、札幌・キタラでの名曲シリーズ

11月に札幌で開かれた第6回日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）総会で、参加した7団体の多くから、会員数の減少と会員の高齢化への対応が課題として出された。それぞれの発言によって、日本のクラシック音楽を取り巻く厳しい現状の一断面

エリシュカ、3回登場 長引く不況影響 入場者減る傾向

が明らかになった。昨年設立50周年だった札幌交響楽団（札幌）は今年、新たなスタートを切った。大きな行事、変化はなかった中で、首席客演指揮者のラドミル・エリシュカが定期、名曲シリーズ、第九と、初めて年3回の演奏会に登場したのが特筆される。エリシュカと札幌のつながりがますます強まったことを感じさせた。

毎夏札幌を中心に開かれる国際教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）」は、ファビオ・ルイジ芸術監督の3年任期の最終年。3年間を通して、アカデミー生に対する教育者としてのルイジの手腕を評価する声が聞かれた。また、初めて札幌を指揮した。

一方、ルイジの後任はまだ決まらず、来年は芸術監督不在のまま音楽祭が開催される。

開館15周年の節目だった札幌コンサートホール・キタラは、積極的に主催事業を繰り広げた。

長引く不況のせいもあってか、券売に苦労する演奏会が少なからずあった。PMFも昨年より10%以上入場者数を減らした。その中で、ピアノの辻井伸行、バイオリンの五嶋龍らの演奏会は満席状態で、人気の程がうかがわれた。

（鈴木博志）

日本プロオーケストラ ファンクラブ協議会（JOFC） 総会、札幌で開催

第6回日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOFC）総会札幌大会が、11月10日、紅葉の広がる札幌中島公園に隣接する札幌パークホテルを会場に開かれた。総会では、はじめに上田文雄JOFC会長（札幌くらぶ会長・札幌市長）が、仙台フィルと仙台フィルクラブ（SPC）の支援活動を含め、音楽を通して苦境の中にいる人々を今後も励ましていくことを呼びかけた。続いてJOFCが加盟団体から集め、すでに贈った義援金とは別に、小野善平群響ファンズ会長から長島栄一SPC会



長へ仙台フィルの聴衆を広めるためのSPCシートにあてる義援金約十萬円の目録が手渡された。この総会では、広響フレンズをはじめとする7つの団体が集まり会員拡大に関する活動報告がおこなわれた。会員にチケット割り引きなどの特典を設けたり、ロビーコンサートや会員交流の場をつくるための事業の充実などが報告されたが、どの団体も会員数維持には苦慮しているようだ。ただ、その中で会員数拡大だけを旨とすだけではなく、会員と楽員や会員同士が厚い信頼関係のもとに音楽を通して人としての強い絆を持つことが



重要であることも意見として出された。オケとの情報交流や若い層の会員拡大が方針として浮かび上がった。

最後に上田会長から「JOFCは「音楽の力」を信じ、私たちのまちのオーケストラ支援と市民をつなぎ、音楽のあふれるまちを築こうではありませんか。そのため必要な施策を勇気をもって実践していきましょう。」という札幌宣言を高らかに読み上げ閉会した。総会後は、参加者が中島公園内にある札幌コンサートホールで尾高忠明指揮・札幌第554回定期演奏会を堪能した後、再び同じ会



H24.11.10. JOFC札幌大会&交流会（「札幌くらぶ」提供）

場で交流会に参加。札幌首席チェリスト石川祐支による歓迎演奏にはじまり、村田正敏札幌理事（北海道新聞社長）をはじめとする多くの来賓を含め会員間の和やかな交流が夜遅くまで続いた。

（八木幸三）